

舟越 桂

私の中のスフィンクス

FUNAKOSHI KATSURA : A SPHINX IN MYSELF

2015年6月27日(土)ー8月30日(日)



舟越 桂 私の中のスフィンクス

FUNAKOSHI KATSURA : A SPHINX IN MYSELF

展覧会概要

舟越桂（1951年盛岡市生まれ）は、今日の日本を代表する具象彫刻家であり、その彫刻は内外で高い評価を得てきました。

大理石の玉眼を使った木彫半身像は、繊細な表情を捉え、静謐で瞑想的な雰囲気を湛えています。それは、なによりもまず、ボディ全体を表現の根幹とする西洋的な規範から距離を置く独自の彫刻の構築でした。このような肖像性に突出した舟越の彫刻ですが、1990年代の半ば頃から、ヤヌスや双頭、山をダブル・イメージさせる体など、異形の姿が頻繁に現れます。舟越は、そこに豊かな意味を込め、表現の拡充を図りつつ、顔と半身の関係性、全体の統一性といった造形的な課題に取り組んできたのです。

さらに、2004年の裸体像によって、顔に焦点が当たる従来の表現と、ボディを表現の核とする西洋的な規範の両方を統合する方向に進みはじめました。それを集約的に行ったのが、翌年からの〈スフィンクス・シリーズ〉です。半人半獣の姿であるスフィンクスをモチーフにした同シリーズ以降、その異形性についてもより大きく展開され、より豊かな世界を開示しつつあります。まさに舟越の円熟を示すものといえるでしょう。

本展覧会では、以上の流れを踏まえた上で、〈スフィンクス・シリーズ〉をひとつの核とし、それ以前からの異形の流れを追い、さらに、最新作も加えて、舟越が追究してきた造形の核心とその魅力に迫ります。

会期等

2015年6月27日（土）～8月30日（日）

休館日：月曜日

※ただし7月20日（月・祝）は開館、翌21日（火）休館

開館時間：午前10時～午後6時

※金・土曜日は夜間開館（午後8時まで）

※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 企画展示室

主催：兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援：公益財団法人 伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、
神戸市、神戸市教育委員会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
企画協力：西村画廊

協力：ホテルオークラ神戸

以下の会場に巡回します。

群馬県立館林美術館 2015年9月19日（土）～12月6日（日）

三重県立美術館 2016年2月9日（火）～4月10日（日）

新潟市美術館 2016年4月23日（土）～6月26日（日）

観覧料

一般1,300（1,100）円、大学生900（700）円、

高校生・65歳以上650（550）円、中学生以下無料

※（ ）内は、前売および20名以上の団体割引料金

（高校生・65歳以上は前売なし）

※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額
（65歳以上を除く）

※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中に美術館窓口
で入場券をお買い求めください。

※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です。
（本展とあわせて観覧される場合は割引あり）

※前売券の販売は6月26日（金）まで。会期中は販売しません。

※主なチケット販売場所：JTB各支店・総合提携店、ローソン、ファミリーマート、
セブンイレブン、サンクス、ほか京阪神のプレイガイド。

※コンビニ商品番号 前売券：0239948 当日券：0239949

ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス、各店で販売。
番号は全コンビニ共通。

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

展覧会構成

本展覧会では、舟越桂の彫刻を約30点展示します。それらを大きく3期に分けることにします。素描、版画も数十点出品します。

1：1980年～1993年

舟越桂の彫刻は、肖像性が高い胸像に代表されます。とくにその肖像性は、大理石の玉眼を使った頭部に集約されます。両眼を少し外に向けて、鑑賞者と目が合うことはありません。それによって、彫刻があたかも遠くを見つめているような効果が生まれるのです。

まだ玉眼が入っていない《「会議」のための習作》(1980年)を導入部とし、上に述べた舟越桂のスタイルが確立された時期の彫刻として、《ルディーの走る理由》(1982年)などを展示します。

本展覧会では、2期、3期との連続性を考えて、比較的モデルの個性が強く出ていない、一般性の高い人物を扱った彫刻を選んでいきます。

この期では、9点出品予定。



2.《消えない水滴》1986年 兵庫県立美術館蔵
 © Funakoshi Katsura



3.《冬の本》1988年 作家蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura



4.《山を包む私》2000年 個人蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura

2：1996年～2003年

第1期にあたる1992年の彫刻《遅い振り子》にすでにその片鱗が見られるように、第2期になると、舟越桂の作品には、胴体に大きな特徴が現れてきます。胴体を山に見立てたり、ひとつの胴体に二つの頭部を取り付けたり、様々な変形が施されるのです。

このことによって、頭部と胴体はより一体感が生まれるとともに、様々な造形的可能性が開かれます。こうした異形性は、次の第3期においてより本格化することになります。

この期の作品としては、9点の出品予定。



5.《雪の上の影》2002年 札幌芸術の森美術館蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura

3：2003年～現在

第2期と第3期の境にあたる2003年制作の《夜は夜に》は、動物の耳をした、動物と人物の混交で、2005年から始まる〈スフィンクス・シリーズ〉を予感させます。このシリーズに代表されるように、第3期は、異形性が強まり、そうした異形の姿によって人間という存在は何かと問いかけが高まっているのでしょう。

同時に、2003年からは裸体が主となります。裸体表現は、ボディを具象彫刻の基本ととらえる西洋の彫刻観を示しています。そうした西洋的な彫刻と、これまでの頭部に集約されてきた自身の表現とをどのように統合させていくかという大きな課題に舟越は取り組んでいるのです。まさに彼の芸術の円熟期といえるでしょう。

この期には、新作を含む12点の出品を予定しています。

4：素描・版画

素描は、大きく2つに分けることができます。まず、彫刻制作のための、彫刻の大きさに近いサイズのワーキング・ドローイングです。もうひとつは、様々なアイデアを具体化するための素描で、とくに異形性がよく表されたものを出品します。なお、スケッチ・ブック、挿画として描いた素描、二重性を主題にした素描なども含まれています。

作者自身が重要な表現と考えている版画も、数点出品する予定です。



6.《月の降る森》2012年 メナード美術館蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura



7.《もうひとりのスフィンクス》2010年 個人蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura



8.《砂漠で見る夢》2005年
 Courtesy of Ando Gallery © Funakoshi Katsura



9.《「雪の上の影」のためのドローイング》2002年 作家蔵
 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura

関連行事

記念講演会

講師：舟越 桂

6月27日(土) 午後2時～(約90分)

ミュージアムホールにて 聴講無料(定員250名・要観覧券、整理券)

※当日午前11時からホワイエにて整理券を配布予定

おやこ解説会

7月11日(土) 午後1時15分～(約30分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

対象：小学生とその家族

こどものイベント「スフィンクスに会いに行く日」

8月16日(日) 午後2時～4時

アトリエ2・展覧会会場にて 参加費100円(定員30名)

対象：小・中学生とその保護者(※高校生以上は別途観覧料が必要)

お申込み：7/16(木) 午前10時から電話にて受付。先着順

お問い合わせ：こどものイベント係 TEL 078-262-0908

学芸員によるギャラリー・トーク

7月11日(土)、7月25日(土)、8月8日(土)

午後4時～(約60分)

会場入口に集合 聴講無料・要観覧券

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中毎週日曜日 午前11時～(約15分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。



舟越 桂 略歴

- 1951年 岩手県盛岡市に生まれる 父は彫刻家・舟越保武
- 1975年 東京造形大学彫刻科卒業
- 1977年 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
- 1986年 文化庁芸術家在外研究員としてロンドンに滞在
- 1988年 ヴェネツィア・ビエンナーレ出品
- 1988年 第43回サンパウロ・ビエンナーレ出品
- 1989年～現在 東京造形大学客員教授
- 1991年 タカシマヤ文化基金第1回新鋭作家奨励賞受賞
- 1992年 ドクメンタIX(ドイツ・カッセル) 出品
- 1992年 第9回シドニー・ビエンナーレ出品
- 1995年 第26回中原悌二郎賞優秀賞受賞
- 1997年 第18回平櫛田中賞受賞
- 2003年 第33回中原悌二郎賞受賞
- 2009年 芸術選奨文部科学大臣賞、毎日芸術賞受賞
- 2011年 紫綬褒章受賞

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

企画内容に関すること

担当学芸員: 出原 均、遊免 寛子、江上 ゆか

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

同時開催の展覧会

県美プレミアム

〈特集展示〉「IN MY ROOM / ON THE ROAD ー私の部屋、あるいは路上にてー」

3月21日(土・祝)～7月5日(日)

会場: 兵庫県立美術館 常設展示室

県美プレミアム

〈特集展示〉VS (ヴァーサス)ーコレクション新旧対決!? (仮題)

〈小企画〉美術の中のかたちー手で見える造形 手塚愛子展

7月18日(土)ー11月8日(日)

横尾忠則現代美術館での同時開催

横尾忠則展 カット&ペースト 切った貼ったの大立ち回り

4月18日(土)～7月20日(月・祝)

横尾忠則 続・Y字路

8月8日(土)～11月23日(月・祝)

※特別展又は、県美プレミアムのチケット(半券可)のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

(詳細はホームページなどでご確認ください)

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

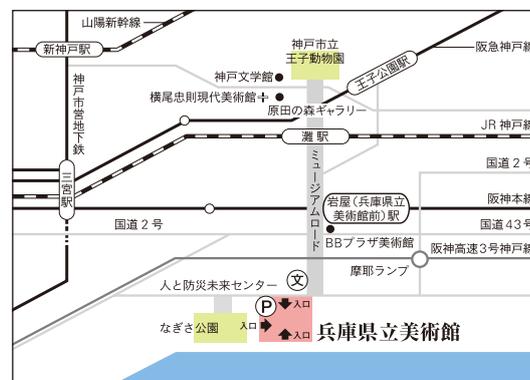
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

J R三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作品名・制作年・所蔵
1	《荒れ野で見る夢》2013年 個人蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
2	《消えない水滴》1986年 兵庫県立美術館蔵 © Funakoshi Katsura
3	《冬の本》1988年 作家蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
4	《山を包む私》2000年 個人蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
5	《雪の上の影》2002年 札幌芸術の森美術館蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
6	《月の降る森》2012年 メナード美術館蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
7	《もうひとりのスフィンクス》2010年 個人蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura
8	《砂漠で見る夢》2005年 Courtesy of Ando Gallery © Funakoshi Katsura
9	《「雪の上の影」のためのドローイング》2002年 作家蔵 Courtesy of Nishimura Gallery © Funakoshi Katsura

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の**作品名・制作年・所蔵**を必ず入れてください。※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)

※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

※Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。

※基本情報、図版使用の確認のため、**ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまで**お送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット	『	』
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)		組	名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、上記営業・広報宛にお送り願います。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。